



伊豆半島ジオパーク
IZU PENINSULA GEOPARK

vol.05

2024 年 10 月 -
2025 年 3 月

伊豆半島ジオパーク News Letter

今号のトピックス

- ・ __松崎町でロゲイニング大会__
- ・ __市民参画に向けて__
- ・ __沼津市で全国研修会__
- ・ __ネットワーキング__
- ・ __イベントレポート__
- ・ __etc__

2025

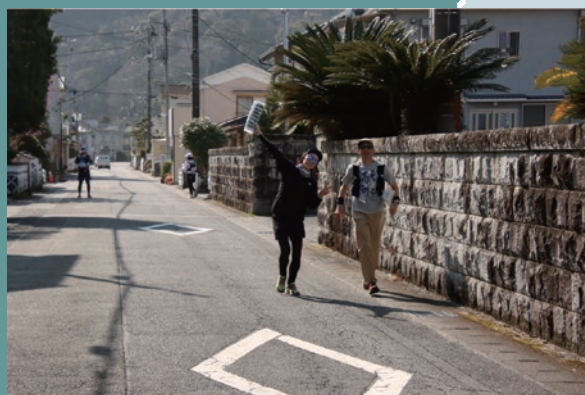
3/2

伊豆半島ジオパークロゲイニング大会 2025 を松崎町で開催

2016 年に始まったこの大会は昨年の沼津市・清水町大会に引き続き今回で 8 回目を迎えました。松崎町をスタート会場として一部南伊豆町も含むエリアで開催されました。参加者は地図に示されたチェックポイントを戦略を立てて回る順番を考え、高得点を狙います。前日の雪の舞うような天気から一転、当日は暖かい陽気になり参加者は汗ばみながら巧みに設定されたチェックポイントを駆け抜けました。ゴールの会場前では地元松崎町観光協会・松崎町のスタッフがお味噌汁のおもてなしを、会場内では名物の桜葉もちとパンとお茶のおもてなしをしました。



<ゴールへ駆け込む参加者>



<松崎町内でのチェックポイント探し>

2025

2/23

「富士山いただきマルシェ」

2016 年より毎年富士山の日に三島市立楽寿園で開催されるイベントに出展しています。今年は 3 連休の中日で、気温は低いものの快晴。多くの来園者がありました。

会場の中央に設けられた「楽寿園火山たんけん」のブースでは、ジオガイドさんたちが火山の仕組みについてスライドや実験で楽しく教えてくれます。参加者の多くは未就学児や小学生を含む親子で、三島市をはじめ伊豆半島各地から来援していました。コーラを使った噴火実験やチョコレートとゼラチンを使った縄状溶岩作りの実験は大人気。最後に実験で学んだばかりの岩や地形を探しに楽寿園内のスタンプラリーに出掛けました。一日を通して 83 名の参加がありました。



<ジオガイドによる座学と実験>

Event report

2024
11/16
17

いずみねへじ ジオカフェ「伊豆峯辺路」

熱海市起雲閣で開催したジオカフェ「伊豆峯辺路ヲカタル」では、かつて熱海を起点に伊豆半島をぐるりと巡った修験の道を取り上げました。この道を再びたどり、紹介する活動を行っている izaizu との共催です。このイベントは「伊豆半島ジオパークトレイル～古の道 伊豆峯辺路をたどる～（静岡新聞社）」の出版記念でもありました。16 日のトークイベントには 115 名と非常に多くの方が参加し、注目度の高さをうかがわせました。伊豆修験の研究をしている國學院大学の深澤教授と伊豆半島ジオパークの遠藤研究員による考古学 × 地学の対談に続き、筆者の船本氏ほか書籍の取材陣によるエピソードが美しい写真とともに紹介されました。かなりハードな修験の場であったという伊豆半島。その一端を体験するために翌 17 日はウォークイベント「伊豆峯辺路ヲアルク」を開催。なんと富士山で修行している本物の修験者の方まで参加されました。熱海の急傾斜を、ほら貝を吹いたり山念仏を唱えながら修験者気分で歩きました。



＜修験者気分で古の巡礼路をたどる＞

2025
1/26

ジオカフェ「おんせんはたいへん」 ～修善寺温泉編～

伊豆半島各地の温泉を取り上げるジオカフェが修善寺温泉を舞台に開催されました。今年のテーマはインバウンド。海外からの来訪者がぞくぞくと増える中、異文化の目に日本の温泉文化はどう映っているのか、その視点を取り入れることで思い描ける未来について、お話いただきました。登壇者は修善寺温泉に愛着を持つ 4 名の方々。地域の方同士でトークを交わすジオカフェとなり、その分思いは強かったように思います。

イベント当日は修禅寺檀徒会館の厳かな雰囲気にも圧倒されながらスタート。ザ・仏教の世界観の中で、外国の方 6 名を含め、35 名の参加者が登壇者の話に耳を傾けました。修善寺温泉の概要と歴史から西洋の温泉事情まで幅広い範囲をカバーし、修善寺温泉で展開されている地域資源を守り、活用する取り組みを伺いました。修善寺が地域の方にとっても、国内外から来訪する方にとっても、温泉情緒あふれる素敵な場所であり続けるためのヒントをいただきました。

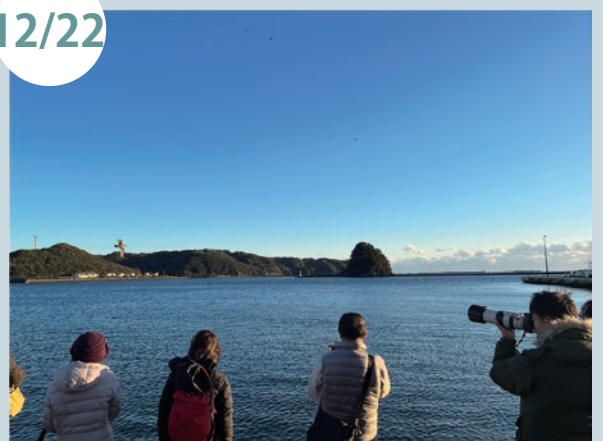


＜トーク後に修善寺街歩きへ出発＞

ジオカフェ「海鳥と海底地形のお話」

下田市にて開催したジオカフェ。小学生を含む 31 名が参加しました。当日は海鳥の生態や観光とのかかわりについて研究している千葉県立中央博物館の平田学芸員にお越しいただきました。平田氏の海鳥愛あふれる弁舌に、会場からは笑いも湧きつつ、活発な質問が飛び交いました。海底地形が海鳥の生態に及ぼす影響から、いかに観光船での海鳥への給餌を持続可能にするかまで、海鳥にまつわる様々な話題からは思いがけない学びがたくさんありました。当日後半は遊覧船でのバードウォッチングを予定していましたが、強風のため、ふ頭からのバードウォッチングに切り替えました。参加者のみなさんは冬の下田で見られる（渡りをしない）海鳥についてより詳しくなって帰りました。

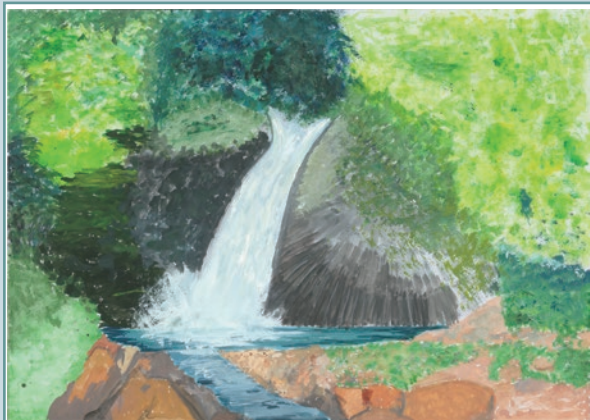
2024
12/22



＜強風でも海鳥は飛ぶ＞

絵画コンクール巡回展 (協賛：サントムーン柿田川、三島信用金庫)

2024 年度の「伊豆半島ジオパークこども絵画コンクール」には 126 点の力作が寄せられました。協賛企業のひとつである三島信用金庫、美術専門家、ジオパーク推進部による審査を経て、合計 39 点の作品が選ばれました。入選作品は 11 月から 2 月までの期間、伊豆半島各地の会場での巡回展で紹介しました。最優秀賞の受賞者と作品は下記 3 名です。「私たちの住む伊豆半島ジオパーク」をテーマに子どもらしい視点で描かれた伊豆半島の絵を毎回楽しみにしています。



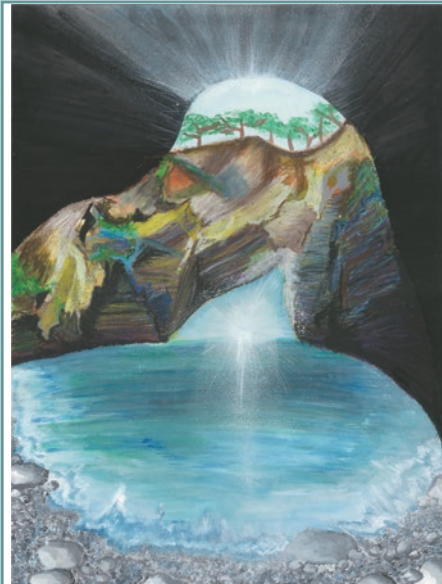
小学 1～3 年生の部 最優秀賞

沼津市立第二小学校 3 年
山田 陽仁（やまだ・はるひと）さん
作品タイトル「浄蓮の滝」



小学 4～6 年生の部 最優秀賞

伊豆の国市立葦山小学校 5 年
宮下 絢羽（みやした・あやね）さん
作品タイトル「大波と馬ロック」



中学生の部 最優秀賞

三島市立北上中学校 3 年
佐久間 悠水（さくま・ゆず）さん
作品タイトル
「Ge oからのエネルギー」



参加賞は下田のすぎのこ作業所に依頼し、伐採木を使ったペン立てを作製していただきました。

2025

1/19

2024 伊豆半島ジオ検定 1・2 級開催

2016 年度から行われているジオ検定の 1・2 級は今年度で 8 回目。募集を行ったところ 36 名の申し込みがあり、当日の受検者数は 34 名でした。1 級合格者は例年 0～2 名ですが今回は 3 名ありました。また 2 級は 13 名で合格率は 47%と例年より高い結果となりました。受検者の年齢別では 60 代 41.1%、70 代 17.6%、50 代 40 代 14.7%と受検者の年齢層は高め。居住地別では多い順に伊東市が 6 名、長泉町が 4 名、下田市が 3 名でした。

鉱物販売のこと

ユネスコ世界ジオパークは、国際的に価値の認められた地質遺産を保護・保全することで、研究や教育、地域文化への理解や地域振興等に活用し、地域の持続可能な発展につなげるプログラムです。ユネスコ世界ジオパークは、ユネスコが定めるガイドラインに準じて運営されています。この基準では、岩石や鉱物、化石などの地質物品の販売を禁止するだけでなく、そのような物品の取引全般を積極的に防ぐことが明記されています。このことは伊豆半島でも例外ではなく、ジオパークの活動を続けていく限りは地質物品の売買を積極的に防いでいかなくてはなりません。この考えの背景には、岩石・鉱物・化石の採掘や流通の過程で、違法な採掘や児童労働などが国際的な問題になっていることが挙げられます。

プチコラム

2024
11/17

「海と川をつなぐ生きもの まぼろしのカニをさがしに行こう」

2024 年『ジオぱく』のテーマは「海」、そして 2025 年のテーマは「川」。
そこで今回は、海から汽水域、川まで生息するズガニ（正式名称モクズガニ）の生態を学ぶイベントを、伊豆半島の中でも漁の盛んな河津町で行いました。イベントでは元水産試験場職員である川嶋さんを講師に、川の生態系や、ズガニに関するレクチャーを受けました。またちょうどズガニ漁のシーズンでもあり、実際に河津川で行われているズガニの「かご漁」を見学しました。ジオサイトでもある佐ヶ野川遊歩道を通ってお昼ごはんの会場へ。ご主人自慢のズガニ料理（茹でズガニ、炊き込みご飯、ズガニ汁）をコースで堪能しました。



＜仕掛けた罠の引き上げを見学＞

2025
3/15

「柿田川共和国ガイドツアー」



＜季節になると鮎の産卵も見られるという＞

「川」をテーマとした 2025 年『ジオぱく』の第 1 弾は、「静岡ガス ショールーム 柿田川」がある清水町で、ショールームと柿田川公園を会場に開催しました。当日の参加者は親子連れをはじめとした 16 名の皆さん。案内役はジオガイドの加賀美さんです。ショールームで柿田川の特徴や成り立ちについて学んでから、おやつを持って柿田川公園まで出掛けました。公園には柿田川の水源となる湧水群があります。年間を通じて温度が一定という湧水。当日は肌寒い日でしたので、湧水に手を浸けてみると温かく感じられました。湧水の環境がはぐくむ柿田川の水辺の生態系や、生きもの同士の関係性について学ぶ機会となりました。

2024
10/12

「植物さがしワークショップ - 湯ヶ島ちっちゃな植物展」

伊豆半島ジオパークと静岡大学の研究拠点である「あまじお」（伊豆市天城湯ヶ島市民活動センター 3F）を会場にして静岡大学理学部との共催ワークショップを行いました。小学生の親子から単独参加の大人まで、幅広い年齢層の 18 名が集まりました。当日は静岡大学の徳岡准教授から天城の植生について学びました。その後同大学生を含む数名ずつのグループに分かれて会場周辺へ出かけ、グループごとにテーマを設けて植物を集めました。それぞれが植物図鑑の 1 ページを作るというコンセプトで植物とその特徴を配置。同じテーマでも全く違う表現が生まれたり、合同でひとつのページを作ったり、和気あいあいとした雰囲気、最後に参加者一人一人が作った作品を紹介し、それぞれの着眼点と表現を共有しました。作品は「あまじお」に「湯ヶ島の小さな植物展」として 3 か月間展示しました。イベント開催にあたり伊豆市企画財政課の協力をいただきました。



＜静大の学生と植物探し＞



＜植物を配置して作品作り＞

探究学習型教育旅行

令和2年に改訂された学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が重視されています。この新しい形の学びを実現するため、小中学校では「総合的な学習の時間」を設け、高校では「総合的な探究の時間」を拡充しました。児童生徒が、地域社会の課題について、自ら調べ、自ら学ぶ活動が盛んになっています。遠足や修学旅行は、いまや、こうした新しい学びの活動と深く結びついたものに様変わりしています。

美しい伊豆創造センターでは、こうした新しいニーズを捉えるため、副教材の整備やジオガイド向けの講習を実施してきました。2024年度、大阪府の高校が伊豆での探究活動をメインに据えた修学旅行で訪れるなど、その成果が少しずつ実を結び始めています。

沼津商業高校ジオパークツアー

高校生が企画し、案内するジオパークツアーが実現しました。県立沼津商業高校の観光コミュニケーションコースは、認定ジオガイドたちからジオパークのサイトやツアー造成などを学べる貴重な学びの場です。今回のツアーは、このコースを卒業する皆さんが、学びの集大成として実施したものです。ツアーは沼津商業のお膝元である清水町や沼津市だけでなく、東伊豆町の細野高原や熱川バナナワニ園でも実施されました。これは、2023年美しい伊豆創造センターが主催した探究交流発表会での、東伊豆町在住の新井ジオガイドと生徒たちの出会いが実を結んだものです。伊豆半島ジオパークでは、これからも地域の高校生や大学生が伊豆半島で活躍する舞台づくりに一層力を入れていきます。

令和7年1月18日(土)
IZUGEO

行程

8:00	沼津駅 発
8:45-9:00	道の駅 伊豆月ヶ瀬
9:50-11:50	伊豆オンレンセンター
12:05-12:45	稲取細野高原
13:10-14:40	熱川バナナワニ園
15:00-16:00	道の駅 伊豆のへそ
16:30	沼津駅 着

ツアー発案者である
我々沼商生が
ご案内します!!
参加費一人あたり**4,000円**

※随分人数は別途必要となります
※雨天時でも決行いたします

若旅プロジェクト

ジオパークでの学習とは、単に地学や郷土史の知識を与えることではなく、若者たちの描いた夢が形になるように、ほんの少し背中を押すこと。その夢を形にしようともがく中で、地域を想う心や、地域で新しいことを産み出す力を養ってもらうこと。私たちはそう考えています。

静岡県立大学や静岡文化芸術大学の学生たちが立ち上げたこのプロジェクトは、河津七滝と湯ヶ野を舞台に、自分たちで歩いて出会った魅力あるスポットを紹介する音声ガイドを作成するものでした。学生たちが書いたテキストは、SPAC版「伊豆の踊り子」で主役を演じた俳優の山崎皓司さんや河村若菜さんの協力で音声化されました。現地はもちろん、ジオパークのウェブサイト上でも公開していますので、ぜひお聴きになってみてください！ <https://izugeopark.org/audioguide/>

七滝・踊子歩道 音声ガイド 始めました！

①QRを
スマホで読み取る

②音声を聞く

③何事をもっと知る

音声ガイドスポット

初原滝 出合滝 釜滝 猿田淵 大滝
ループ橋 稲田家 旧天城トンネル

若旅プロジェクトって？

若旅プロジェクトは、東海地域の魅力を伝えるために
静岡県立大学・静岡文化芸術大学の学生と静岡県立
地域振興局が協力して取り組むプロジェクトです。
令和6年度は伊豆半島のジオパークに属する伊豆創造センター
の方々のサポートのもと、河津七滝地区にて観光を
もっと楽しくする音声ガイドを制作しました。

制作・協力：

「低い土地」ってどんなところ？

地球温暖化を知り、水害から身を守ろう！

コミュニティながいずみ（長泉町下土狩）を会場に、イベント『「低い土地」ってどんなところ？地球温暖化を知り、水害から身を守ろう！』を開催しました。長泉町内外に住む小学生から大人まで、約20名の方が参加しました。イベントでは気候変動の原因や影響、地球温暖化によって今後どのような災害が起こりやすくなるかなど、ハザードマップを使って調べたり、さまざまな専門家から話を聞き学びました。さらに、ジオガイドと一緒にまち歩きをおこない、地形の見方を学んだり、身近な場所に潜む危険や災害リスクについて体験を通して理解を深めました。



2025
2/11

ジオリア企画展

GEORIA

10/3
12/10

GEORIA



<サバソニによる設営風景>

「可哀しいシートイ展」

10/3-12/10 まで海洋ゴミをテーマにした企画展を開催しました。海洋清掃や海洋環境をテーマに活動を展開するサバーソニック & アジロックフェスティバル（以下サバソニ）の協力を得て、海洋汚染や海洋ゴミについて啓発する、かわいくも哀しい、インパクトある展示が出来上がりました。また、期間中の12月1日には、海に関連するワークショップを開催しました。

3/27
6/3

「平和のためにできること」

地球の裏側で起きている紛争や貧困・飢餓などの問題は、私たちの生活とは一見無関係に思えるかもしれませんが、実は私たちの豊かな生活と密接につながっています。豊富な鉱物資源をめぐり、紛争や人権侵害などの重大な問題が生まれていることを知り、私たち一人ひとりに何ができるのかのヒントを探しに来てください。

協力団体：認定 NPO 法人 テラ・ルネッサンス

GEORIA

紛争鉱物って何？

紛争鉱物とは

や国軍などに利用され、紛争の資金源となっており、タングステン(Tungsten)、タンタル(Tantalum)、金

がもたらす問題

01

力や国軍に

民への暴力

02

住民の生計の破壊

03

危険な小

手掘り鉱



争を助長させるものとして問

「可哀しいシートイ展」関連イベント「海を思うワークショップ」

12/1

ジオパーク推進部では漂着軽石の出所や成分について学ぶワークショップを行いました。7組の親子が参加しました。当日は石についてとても詳しい子もあり、研究員からの軽石の見分け方や組成に関する話の中でも積極的に発言がありました。乳鉢で軽石を細かく砕き、七輪で加熱すると、溶けてガラスになることを確かめました。サバソニは廃プラスチックのアクセサリ作りや、浜辺の拾得物を使ったクリスマスカード作りを行いました。シーグラスや貝殻でびっくりするほど素敵な作品が出来上がりました。30名ほどの参加者でジオリアの中庭がにぎわいました。途中で開催したシートイ鑑定団は、複数の参加者が持参した自慢のシートイをその場で鑑定して値段をつけるというもの。次から次に登場するお宝に会場からは歓声が上がり、通りすがりの人も見学に訪れました。チーム・サバソニならではの盛り上がりのあるイベントとなりました。



<軽石を選ぶ参加者たち>

ミュージアムジャック in ジオリア

2/4



<来館者に説明する子どもたち>

ジオリアを会場に、伊豆の国市立大仁北小学校によるミュージアムジャックがおこなわれました。ミュージアムジャックは子どもたちの遊び心をくすぐり、主体的な探究活動に巻き込んでいく「リアルごっこ遊び」を通して、ミュージアムのガイドやスタッフの知識や技術を学び、共感・連帯・行動を促す資質や能力を身につけていく ESD カリキュラムのこと。大仁北小学校の5年生では、年度に一年間かけて伊豆半島ジオパークについて探究学習に取り組みました。ミュージアムジャックでは、クイズを交えた手作りの紙芝居をもちいて学習の成果を発表したり、ジオリアのスタッフとして受付や来館者対応、施設の清掃などをおこないました。

伊豆半島探究学習サミット@修善寺

修善寺（伊豆市修善寺）を会場に、静岡大学未来社会デザイン機構との共催で「探究学習サミット」を開催しました。午前中にジオガイドの案内によるまちあるきと伊豆半島ジオパーク学術研究発表会を、午後に伊豆半島の高校・高専がお互いの探究学習の成果を発表しました。ジオパークの学術研究発表では、令和6年度に助成を受けた3名の研究者により、伊豆半島に生息するクワガタムシや、フタツメイソウミグモ（海に棲む節足動物の一種）、西伊豆地域の津波対策に関する報告がおこなわれました。高校・高専生の成果発表では県立三島北高校など11校44名の生徒により、SDGsや地域の特産品・伝統産業、ICTを活用した農業や深海生物などをテーマに発表があり、来場者と活発な交流がおこなわれました。



2025

1/7

東海自動車(株)より、伊豆半島ジオパークの学術研究のための寄付をいただきました。

東海自動車株式会社から99,720円の寄付をいただきました。2016年より毎年、ニューサマーオレンジを用いた焼酎「うめえら!」の売り上げ1本につき10円の寄付をいただいています。1月7日（火）東海自動車の三宅社長より、代表理事の菊地伊豆市長が寄附金を受領しました。いただいた寄附金は、伊豆半島ジオパークの学術助成金として使わせていただいています。

伊豆箱根鉄道(株) いずっぱこ GEO（ジオ）トレイン 運行

～第7弾は、知徳高校生による地元紹介電車・ヘッドマークも高校生作品～

いずっぱこGEOトレインもすっかり地域に定着。今回は、学校法人三島学園知徳高校と伊豆箱根鉄道株式会社がコラボレーションしました。今回のテーマは「古写真から巡る三島」三島で発見された古写真の今を高校生が訪問し、撮影。三島の魅力について現在と過去を見比べながら楽しめる散策コースが、車内のシールで紹介されています。駅と鉄道の昔と今、街並みの移り変わり、史跡巡り、水の都の見どころ紹介等高校生の視点で地域の魅力を案内してくれています。伊豆箱根鉄道ご利用の際には、ぜひご覧ください。



<運行開始の日>



<高校生がデザインした
ヘッドマーク>



<窓に貼られたシールに注目>



ワーキンググループ発足

2022 年の世界ジオパーク再認定にあたり、ユネスコは、今後取り組むべき項目の筆頭として「地域コミュニティがジオパークの意思決定やプログラムに直接、関われるよう保証すること」を挙げました。この課題への取組の一つとして設けられたのが、ジオパーク全体の方向性を示す基本計画・行動計画を創る新しいワーキンググループ（小委員会）です。このようなワーキンググループは、これまで専門家と認定ジオガイドだけが参加できるものでしたが、今回からは新聞などで公募を行い、7 名の市民の方々に輪に加わっていただきました。メンバーには 10 代の高校生、大学生が 3 人も入っています。私たちは、これからも伊豆に住み伊豆を愛する方に開かれたジオパークを目指していきます。

ジオパークの未来
伊豆の未来

いっしょに
作りませんか？

伊豆半島がユネスコ世界ジオパークに認定されて 5 年が過ぎました。これまでの 5 年は皆さんの期待に添えるものだったでしょうか？ ほんとこんなことでもしてほしかった。私ならこうしてみたい！ そんな風に感じることがないでしょうか？ 世界ジオパークは、地域に住むみんなのもの。美しい伊豆創造センターでは、私たちと一緒にジオパークの未来、伊豆の未来を描いてみたい方を募集しています。

（一社）美しい伊豆創造センター 伊豆半島ジオパーク中期計画
2026～2030 作成チームメンバー募集要項

募集人数 5 名程度

内容 令和 5 年 7 月 31 日（令和 5 年 1 月 31 日）までに、2 回（1 回 2 時間程度）のオンラインが
あります。
+ 約 1 年に 1 回、伊豆半島内のジオパークを巡るような方々を招く「キャラバン」があります。
+ キャラバンにも参加可能な方を優先します。
+ 保護（自然や文化）・教育・持続可能な地域づくりの 3 つの分野のうち、関心のある分野を 2 つまで選んで応募してください。

応募資格 高校生以上の男女
+ ジオガイドやジオパーク認定などの資格や、特別な専門知識がなくても応募できます。
+ 若者（高校生）は若い人も含め応募大歓迎です。未来の主体は若い人ではなく、若者です。
+ 女性の積極的な応募をお待ちしています。
+ 障がいをお持ちの方には必要なサポートをしますので、ぜひ応募ください。

応募方法 応募シートから応募フォームにてご応募ください。伊豆半島ジオパークのホームページからダウンロード可です。伊豆半島ジオパーク 事務局（伊豆市）〒410-0201 伊豆市修善寺 2 丁目 1 番 10 号 電話 0458-72-0520 応募締切は、7 月 17 日（水）までにメールでお願いします。

お問い合わせ （一社）美しい伊豆創造センター 伊豆半島事務局 838-1 〒410-0201 伊豆市修善寺 2 丁目 1 番 10 号 電話 0458-72-0520 ジオパーク推進部（担当：松田・辻） info@izugeopark.org

2024
11/27

ジオパークキャラバン



伊豆半島にジオパークができて時間が経つうちに、ジオパークがだんだん事務局だけの「お役所仕事」になり、事務局とお付き合いの長い少数の方だけが作る「ムラ社会」になってしまっていないか。そんな反省から生まれたのがジオキャラバンです。

キャラバンは、事務局の面々が伊豆半島の各地に足を運んで、ざっくばらんに、カジュアルに、ジオパークでこんなことができたらいいな、こんなところは変わってほしいなという声を伺う少人数の対話会です。今年は第四回のキャラバンが長泉町で、第五回が伊豆市修善寺で開かれました。キャラバンは認定ジオガイドだけでなく、誰にでも開かれています。今このニュースを読んで下さっているあなたの参加を心からお待ちしております！



＜みんなの声が生かされるジオパークに＞

2025
2/5

ジオパークビジターセンター情報交換会@南伊豆ビジターセンター

伊豆半島各地にあるジオパークビジターセンターの交流と情報交換の機会を年 2 回設けています。域内各地の特色のある取り組みを実際に体験し、ヒントを得る機会ともなっています。今回は伊豆半島最南端石廊崎にある、南伊豆ビジターセンターが会場となりました。ここではガイドさんが常駐し、その場で申し込みがあればガイドを行う仕組みがあります。長泉町や清水町などからは車で二時間近くかかる場所。8 か所のビジターセンターからの参加者があり、中には南伊豆に初めて来たという方もありました。都市部とはまた違った伊豆半島の大自然を強風と日差しの中案内してもらいました。ガイド同伴でないと行けないコースには特別感があり、南伊豆の風景とガイドさんの人柄に、ファンやリピーターがついているという話にうなずかれました。



＜ガイドとしか行けないコースも体験＞



＜南伊豆の取り組みを共有＞

2024

12/8
・
10

JGN 全国研修会 in 伊豆半島

沼津市プラサヴェルデを会場に開催し全国のジオパーク関係者42名が参加しました。8月に当法人が監修した「ジオパークからはじめる地域づくり・人づくり」をテキストに使用し、その著者が講義を行うことで理解が深まる研修となりました。最終日は東コースの大室山と西コースの松崎・堂ヶ島に分かれて現地での取り組みやガイドツアーを行いました。参加者からは研修内容も充実しており、ワークショップを通じて横のつながりができたなど好評な意見が多かったです。



＜様々な考えを共有するワークショップ＞



＜著者の皆さんの講義は濃厚＞

2025

3/9

第12回南紀熊野ジオパークフェスタ

南紀熊野ジオパーク構成市町のひとつ、和歌山県上富田町で12回目を迎えた「南紀熊野ジオパークフェスタ」が開催されました。上富田文化会館を会場に南紀熊野ジオパーク関係者、黒潮ネットワークの室戸ジオパーク、土佐清水ジオパーク、銚子ジオパークや環境省、京都大学、高等学校、中学校などのブースが並びました。天気も良く立地も良い場所でしたが来場者は100名前後で少々盛り上がりには欠けました。翌日は紀伊田辺市からレンタカーを借りて近隣のジオサイト志原海岸、千畳敷、円月島の三か所を巡りサイトの保全状況や、観光客の入り具合などを確認して帰路につきました。



＜黒潮がつなぐジオパークネットワーク＞



＜伊豆半島の千貫門にも通じる円月島＞

2025

2/17
・
18

JGN 中部ブロック大会

新潟県糸魚川市にて中部地域のジオパーク関係者が「認定審査の問題点」をテーマに話し合いました。ジオパークを継続していくために、審査をする側・受ける側の双方が納得できるような制度改正や審査への共通認識が必要であることを確認しました。



GGN20 周年

世界ジオパークネットワーク（GGN）発足 20 年を記念して開催された3つのコンテスト。日本人離れした導入文とアートセンスでなかなかとつきにくい企画でしたが、少数ながら個性の光る作品が集まりました。どうもありがとうございました！無事、伊豆半島からは写真とエッセイの2部門に代表作品を送ることができました。後日、入賞作品をご案内いたします。

私たちの手を離れた後は、国内 10 地域のユネスコ世界ジオパークから日本の代表作品を選出し、世界で競われます。世界の代表作品に選ばれた方は、世界のどこかのジオパーク地域に招待されるそうですよ。ジオツアー付きプランだそうです。



＜エキゾチックな募集ポスター＞



チレトゥジオパークとの協定更新・西ジャワ州来訪



チレトゥ・パラブハンラトゥ・ユネスコ世界ジオパーク（インドネシア）との連携協定を更新しました。また、去る 10 月の晴れた日、この姉妹ジオパークを管轄する西ジャワ州から政府訪問団が訪れました。総勢 8 名の訪問団がジオリアを訪れ、プロジェクトマップングコーナーを囲むように協議を行いました。コロナ後初の対面協議。みんな笑顔で、インドネシア発案のおにぎりのポーズで集合写真を撮りました。その後、伊豆・村の駅に向かってお昼。海鮮丼はとても好評でした。

＜ジオリアでの記念撮影＞

中央アジア キルギス視察団来訪 ユネスコ世界ジオパーク認定へ 伊豆半島ジオパークで学ぶ

12 月 1 日から 4 日間、世界ジオパークを目指す中央アジアキルギス共和国の視察団 10 名が、伊豆半島を訪問し、ジオパークの運営や活動を学びました。1 日には、「ジオリア」を見学し、河川の成り立ちを示す水理実験やジオガイド活動を紹介しました。一行は期間中、丹那断層や堂ヶ島といった伊豆半島を代表するジオサイトで、ジオガイドの説明を受けました。

キルギス共和国は中央アジアのスイスと呼ばれる自然豊かな国で、視察の振り返りでは「キルギスでどのようなジオパークを作るべきかというビジョンが見えてきた」といった意見が聞かれ、感謝の意が示されました。



＜長泉での活動紹介を聞く一行＞



＜丹那断層公園にてジオガイドさんと＞

次世代ジオガイド研修

12月に熱海市内の伊豆山神社と錦ヶ浦、1月に初島で熱海市の石川ジオガイドを講師に研修を行いました。来訪者が多い熱海では今後ガイドの需要が見込まれることから、現地で対応できるガイドの育成が急務となっています。研修受講者の今後の活躍が期待されます。

ジオガイド養成事業

9月から始まった第9期ジオガイド養成講座の受講生から新たに7名が認定されました。

1月18日に伊豆市土肥で「ジオパークにおける防災の役割」をテーマに、1月29日に東伊豆町熱川温泉と細野高原のジオサイトでそれぞれジオガイドスキルアップ講座を開催しました。

12月24日、第4期と第7期ジオガイドの資格更新講習を行い、43名のガイドが資格を更新しました。



<初島での次世代ジオガイド研修>

研究員による講演・講座など（2024年10月～2025年3月）

講演・講義（降順）※主催団体名・講演タイトル・参加者数・開催場所

2024.11.07. かわづふるさと案内人「伊豆半島の成り立ちと植生」12名 河津桜観光交流館

2024.12.03. 日本大学「伊豆観光文化論伊豆半島ジオパーク概論」100名 三島校舎

2025.01.14. 静岡大学「自然遺産の保護と活用 - 伊豆半島ジオパークの植生と生態 -」40名 オンライン

2025.01.14. 慶應義塾大学「伊豆半島ジオパーク概論」30名 湘南藤沢キャンパス

2025.01.26 県東部石材加工組合講演会

2025.03.28. 山脇学園サイエンスクラス「伊豆研修」24名 ジオリア

2025.02.03. 三島・田方地区県立学校副校長・教頭会「ジオパークの活動と学校教育との連携」20人 修善寺総合会館・ジオリア

2025.01.26. 静岡県東部石材加工組合「石屋が知っておくべき静岡県東部の地形と地盤」24名 ホテルサンバレー伊豆長岡

2025.01.18. ふじのくに地域・大学コンソーシアム「ふじのくに学（観光学）- 伊豆半島ユネスコ世界ジオパークから学ぶジオサイト -」17名 ジオリア

2025.01.07.14.28. 静岡大学「自然遺産の保護と活用 - 伊豆半島ジオパーク」各回40名 オンライン

2024.12.05. 丸の内プラチナ大学「三嶋の神のモノガタリ - ジオパークによる地域共創の取り組み -」30名
東京都千代田区大手町「3×3Lab Future」

2024.11.09. 日本鉱業史研究会「伊豆半島ジオパークと伊豆の鉱山」30名 伊豆市役所土肥支所

2024.11.07. 静岡県立松崎高等学校「西伊豆の地質と産業」25名 静岡県立松崎高等学校

フィールドワーク（降順）※主催団体名・テーマ・参加者数・開催場所

2025.02.23. NPO法人伊豆未来塾「南伊豆の山の植物観察会と植物当てクイズ」8名 南伊豆町内

2024.11.17. 伊豆ジオスクール「菖蒲沢で石ころ探し」27名 河津町内（菖蒲沢）

2024.11.10. 日本鉱業史研究会「伊豆の鉱山遺跡現地見学会～持越・湯ヶ島鉱山跡～」16名 伊豆市内（湯ヶ島）

2024.10.18. 東伊豆町教育委員会「志津摩海岸の地質」12名 東伊豆町内（志津摩海岸）

2025.03.27. 山脇学園サイエンスクラス「伊豆研修」24名 伊東市内（城ヶ崎海岸・大室山）

発行元：（社）美しい伊豆創造センター ジオパーク推進部

〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺838-1 修善寺総合会館内

☎ 0558-72-0520

✉ info@izugeopark.org

URL <https://izugeopark.org/>



伊豆半島ジオパークのサポーターになりませんか？
サポーターには定期的にイベント等のお知らせをお送りします。
詳細はこちらの2次元コードから↓



伊豆半島ジオパークミュージアム「ジオリア」

〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺838-1 修善寺総合会館内

開館時間／9:00～17:00（入館は閉館時間の30分前まで）

☎ 0558-72-0525

FAX 0558-72-1355

休館日／水曜日・年末年始（12/29～1/3）

（水曜が祝休日の場合は開館し、翌平日休館）

<https://georia.izugeopark.org/>

